

2017年6月発行

安房普及だより

〒294-0045 千葉県館山市北条402-1 TEL:0470-22-8132 FAX:0470-22-0097

ホームページアドレス <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-awa/index.html>

発行：安房農業事務所改良普及課・安房農林業振興協議会普及事業部会



立毛審査の様子



収穫物審査の様子



調製作業をする組合員と育成会員

第64回千葉県野菜品種審査会（レタスの部）

館山市神戸地区では、昔からレタス生産が盛んに行われていますが、現地では「レタスビッグベイン病」が重要病害となっています。そこで、第64回千葉県野菜品種審査会（レタスの部）を招致し、現地に適応性があり、「レタスビッグベイン病」に耐病性を有する優良な3品種を選定しました。

本審査会の運営には、現地の生産組合である「館山市清浄そ菜組合」や若手経営主及び後継者で構成されている組合下部組織の「神戸レタス育成会」、JA安房神戸支店等の関係機関の協力をいただきました。

選定された品種は、今年度に引き続き現地で試作栽培を行い、耐病性等現地適応性を確認する予定です。

野菜におけるハダニ類とアザミウマ類の生態

今回は、野菜類に発生するハダニ類とアザミウマ類の生態について紹介します。どちらの害虫も肉眼では発見しにくく、防除が難しいため、正しく理解し、効果的な防除につなげましょう。

ハダニ類は、主にナミハダニ（体色は赤色あるいは黄緑色）とカンザワハダニ（体色は赤色）の2種類が加害します。両者ともに25〜28℃の乾燥条件下では約10日で卵から成虫になります。雌は交尾の有無に関わらず産卵可能です。ハダニ類は植物の組織内を口器で破壊し、吸汁するため、葉に小さな白い斑点が点々とでき始めたなら、早期に防除しましょう。

アザミウマ類は、主にミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ等が加害し

ます。25〜30℃では約10〜14日で卵から成虫になります。雌は交尾の有無に関わらず産卵可能です。アザミウマ類は針のような器官で植物を刺し、植物組織を破壊して吸汁します。幼虫・成虫共に葉・茎・花・果実などを加害する上、ウイルスの媒介者となるため、少数の発生でも注意が必要です。成虫を見つけて防除を行った5〜7日後に、ふ化した幼虫の防除を行い、次世代の増殖を防ぎましょう。両者ともに薬剤の抵抗性が発達しやすいため、系統の違う薬剤を使用しましょう。



実体顕微鏡で見たナミハダニ

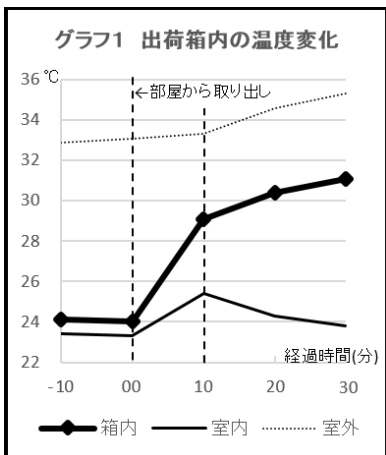
要注意!
夏花を予冷庫から出すタイミングに気をつけましょう

切り花の鮮度保持対策としては、①エチレン発生抑制のためのSTS処理、②水揚げ用の水のバクテリアの増殖を抑えるための殺菌剤の施用やバケツの洗浄、③花の呼吸量を抑えるための低温管理等があります。特に気温が高い夏場では、③の温度対策が重要となりますので、既に保冷庫の設置や作業場にエアコンを導入されている方が多いと思います。

しかし、注意していただきたいのは、花を保冷庫から出すタイミングです。グラフ1は、昨年の夏に行った事例調査の結果です。花の入った出荷箱の中に、温度記録計を設置し、その変化を調べました。（20℃設定）の設置された部

屋に保管し、日中に室外に出したところ、わずか10分の間に5℃以上も上昇しました。

本来、夏場の出荷は、気温が上昇していない早朝、又は日差しが弱くなった夕方以降が適していますが、市場や運送会社との契約上、難しい場合があると思います。その対策として、作業場の入口にひさしの設置、屋根に白いペンキを塗るなどして出荷時の周囲の気温を低く抑えるとともに、保冷庫から取り出したら、速やかに保冷車へ搬入することを心掛けて、クールドチェイン化に努めましょう。



米の食味向上に向けて

米の食味を評価する方法は、人間が食べて評価する「官能検査」と「食味計等」での測定があります。一般的には食味計等で測定した米粒の粗タンパク質含有率が高まると、官能検査による食味の評価も低下します。このため、食味向上には米粒の粗タンパク質含有率を高めないことが重要です。

①窒素量の減肥

粗タンパク質含有率を変化させる最も大きな要因は、窒素の施肥量と施用時期です。穂揃期の葉色と米粒の粗タンパク含有率には密接な関係があり、穂揃期の葉色が濃いと、食味が低下することがあります。良食味米を目指すにはイネをよく観察し、穂揃期の葉色あまり濃くならないような肥培管理が求められます。穂肥の施用量や施用時期に留

意することが必要です。

収量との兼ね合いもありますが、窒素施用量を控えることが必要です。

②乾燥調製時の注意点

米粒の粗タンパク質含有率を高めたいためには乾燥調製の過乾燥（14%以下）を避け、1.8以上^{1.8}の網目で選別するのも効果的です。品種にかかわらず粒厚が薄い米粒は粗タンパク質含有率が高く、特に「コシヒカリ」では、粒厚1.8^{1.8}未満の米粒では粗タンパク含有率が顕著に高まります。既に他県では、選別に用いる網目を1.85^{1.85}や1.9^{1.9}にする例が多くなっています。粒厚の厚い米粒を生産するとともに、乾燥仕上げ水分の適正化（15%）と1.8^{1.8}以上の網目を用いた選別が重要です。

会員大募集！

女性農業者の新組織発足！

女性農業者の世代や地域を超えた新しい組織「ちば県女性農業者ネットワーク（会長・小坂美恵子氏）」（会員数二九八名・平成二九年二月現在）が、昨年六月二日に発足し、安房地域からは八名が加入しています。

昨年度の主な活動として、青森大学副学長・エッセイストの見城美枝子氏による講演「女性と農業力く農業のビジネスチャンスの時代にく」

- ・会員による経営事例発表
- ・情報交換「農業経営に女性の視点を生かすには」
- ・農業女性応援企業からの商品展示紹介

を行いました。県ネットワークからは、フェイスブックで情報を発信しています。「ちば県女性農業者ネットワーク」

を検索してください。これらの活動により、県内全域の女性農業者がつながり、視察研修で他地区の会員を訪問するなど、交流が始まりました。

そして、安房の地区組織として「安房女性農業者ネットワーク、陽（ひかり）」（会長・須藤陽子氏）が今年一月十二日に発足しました。

新しい地区組織では、女性農業者が前向きに農業に取り組むことが各経営体の発展につながるかと考え、①世代を超えた交流、②知識や技術の向上のための研修会を中心に活動を行います。

本組織の趣旨に賛同する方であれば年齢や経験を問いません。お気軽にお問い合わせください。

【お問合せ先】

安房農業事務所改良普及課
(TEL) 0470-22-8132
担当・田中

安房地域の若手農業者紹介

南房総市千倉町で水稲経営を営んでいる石井俊輔さん(38)を紹介します。

石井さんは、平成26年に就農し、現在就農4年目になります。就農前は、ほ場等の水道設備工事や電気工事を請け負う仕事をしておりましたが、そこで出会った水稲農家と話をするうちに農業という仕事に興味を持ち始め、知人の紹介で水稲農家に師事した後就農しました。

現在、石井さんは主食用米の他に飼料用米やイネWCSの栽培にも取り組んでいます。エサの生産だけではなく鶏ふん堆肥を積極的に使用するなど地域の畜産農家と連携を深めており、地域の重要な農家として頭角を現しつつあります。

昨年度には「密播疎植」という水稲の新しい技術を取り

入れたり、穀物検査員やJGAP指導員の資格を取得したりと様々なことに挑戦している石井さん。イノシシと闘いながら日々ほ場を駆け回っています。

石井さんは「お米は生産調整の問題や飼料用米の政策の不透明感、有害鳥獣の拡大など課題が山積みで不安感もあるけれど、逆に転機こそ追い風になる」「将来は法人化して力をつけ、水稲で地域の農業を守りたい」と、力強く話してくれました。



石井俊輔さん

いちじくいきいきセミナーの参加者を募集します!

いちじくの栽培技術等を学ぶセミナーを開催します。枝の誘引や病害虫の防除など年間4回程度の研修会です。

本格的にいちじく栽培に取り組みたい方、取り組み始めて間もない方、一緒に学んでみませんか。参加者は随時募集していますので安房農業事務所改良普及課にお問い合わせください。

食用ナバナチャレンジセミナーの御案内

安房地域の特産である食用ナバナの栽培技術等を学べる実践的な研修です。詳細は、(一財)南房総農業支援センター(28・4595)までお問い合わせください。

第66回関東東海花の展覧会
農林水産大臣賞受賞者の紹介
平嶋 勝司(館山市)
一般切花の部(ストック)

改良普及課職員紹介

改良普及課長 小林 寛子
主席普及指導員 山田 博

【館山グループ】

石井義久(グループリーダー) (花き)
大山 康彦 (花き)

白井徳一(野菜・果樹・生活)

清水ゆかり (作物・畜産)

永山 春菜 (花き)

渡邊 信吾 (野菜)

【鴨川グループ】

保坂信久(グループリーダー)

浅野清一郎(作物・畜産・果樹)

加藤 美紀(作物・花き・生活)

竜澤 はるか (野菜)

石井 堅也 (野菜)

【南房総・鋸南グループ】

渡部和彦(グループリーダー)

渡辺 聡 (畜産)

田中 千華 (花き・生活)

影山 浩司 (果樹)

橋本 威 (野菜)

小宮 良美 (作物)

中後 貴寛 (花き)

松永 大樹 (野菜)

山田 知実 (果樹)